整理番号 4988　管理者許可日：2026 年 9 月 30 日
作成日 2026 年 6 月 10 日

（臨床研究に関するお知らせ）

和歌山県立医科大学保健看護学部で保健看護実習 C(老年)に参加された皆さんへ

和歌山県立医科大学保健看護学部では、以下の疫学研究を実施しています。ここにご説明するのは、過去の保健看護実習 C(老年)で調査した実習前後アンケート結果のデータを振り返り解析する「後ろ向き観察研究」という臨床研究で、和歌山県立医科大学倫理審査委 員会で審査され承認のうえ、研究機関の長による許可 を得て行うものです。すでに存在する情報を利用させて頂く研究ですので、対象となる患者さんに新たな検査や費用のご負担をお願いするものではありません。また、対象となる方が特定できないよう、個人情報の保護には十分な注意を払います。

この研究の対象に該当すると思われた方で、ご自身の情報等が利用されることを望まない場合やご質問がある場合は、下記の問い合わせ先にご連絡ください。

１．研究課題名

老年看護実習の形態変化が学生の自己効力感に与える影響―COVID-19 流行前後の比較―

２．研究代表者

和歌山県立医科大学保健看護学部　講師　丸岡　朋子

３．研究の目的

COVID-19 流行に伴う老年看護実習の形態変化が、看護学生の看護実践に対する自己効力感にどのような影響を及ぼしたかを比較検討し、今後の実習指導への示唆を得ることを目的とします。

４．研究の概要

（１）対象となる患者さん

2000 年から 2025 年に在籍した和歌山県立医科大学保健看護学部生で、保健看護実習 C(老年)を終了した方

（２）研究期間

研究実施許可日～2030 年 3 月 31 日まで

（３）試料・情報の利用又は提供を開始する予定日

当院の研究実施許可日から 2 週間経過後

（４）利用させて頂く試料・情報

この研究で利用させて頂くデータは、「看護学生の臨地実習自己効力感」に関する情報です。

（５）方法

2020 年から 2025 年のデータをもとに、実習期間開始前（実習前）と実習終了時（実習後）の「看護学生の臨地実習自己効力感尺度」について分析を行い、実習形態別に自己効力感の実態を明らかにします。また、実習形態の違いが看護学生の看護実践に対する自己効力感にどのような影響を及ぼしたかを比較検討し、今後の実習指導へ活かすための示唆を得ます。

５．外部への試料・情報の提供

ありません。

６．個人情報の取扱い

利用する情報からは、個人を特定できる情報は削除します。また、研究成果は学会や学術雑誌で発表されることがありますが、その際も個人情報が公表されることはありません。

７．ご自身の情報が利用されることを望まない場合

このような後ろ向き観察研究は、医学の進歩に欠かせない学術活動ですが、ご自身の情報が利用されることを望まない場合、これを拒否する権利があります。その場合は、研究対象から除外させて頂きます。なお、研究協力を拒否された場合でも、不利益を被ることは一切ありません。

８．資金源及び利益相反等について

本研究は外部や企業からの寄付金や報酬等受けず、和歌山県立医科大学保健看護学部個人研究費によって実施することとする。この研究を行うにあたっての利益相反はない。

９．問い合わせ先

所属：和歌山県立医科大学保健看護学部
担当者：丸岡　朋子
住所：和歌山市三葛 580
TEL：073-446-6700
E-mail：freburu@wakayama-med.ac.jp